

事後評価報告書 (日本-台湾研究交流)

1. 研究課題名:

「SDN 制御の IoT・クラウドシステムにおけるセキュリティの改善を目的とするデバイス・アプリケーション同定手法の研究」

2. 研究代表者名:

日本側: 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授 中尾 彰宏

相手側: 国立台湾科技大学 資訊工程系 副教授 鄧 惟中

3. 総合評価: B

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本側、台湾側の個別研究および両者を合わせた研究成果が出ていることから、IoT セキュリティをデバイス、ネットワークおよびクラウドの観点から向上させるという当初の目的は達成されていると評価する。また、日本側、台湾側の共著論文 1 報が The Journal of Systems and Software 誌に掲載された点も、十分な成果と言える。

一方で、開発した技術の個別評価はなされているものの、それらが当初に掲げた目標である「IoT におけるセキュリティとプライバシーの確保」をどの程度達成しているかを評価する方法や評価結果が明確に示されていないことにはやや不満が残る。また、日本側、台湾側の研究の統合を行ってはいるが、その成果の具体的な内容や IoT 機器に応用した際の有効性の検証も必要であると考え。このほか、特許出願が台湾側に限られているが、日本側または共同の知的財産の確保も重要と考える。

(2)交流成果の評価について

両大学の学生がこの分野の研究に興味を持って交流し、さらに研究を深めるために大学院に進学した点は、交流の成果と言える。台湾側からセキュリティ専門家が加わることにより、知識を補完しながら両大学の教員間の連携が深まった一方で、定期的な交流は行われているものの、今後の交流継続につながる人材育成への展望が見えなかった。また、継続・発展の方向性について、プロジェクトの一部において他研究プロジェクト予算により改良を行うとの記載はあるものの、具体的な今後の進め方を明確にしてほしかった。

(3)その他

特になし